永遠の真理

ETERNAL TRUTH

2023年 7月

「神のむすこ娘たち」「放蕩息子（III）」「転機」「タイ風春雨サラダ」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強
「放蕩息子（Ⅲ）」 4
聖書の教え

朝のマナ
「神のむすこ娘たち」 7
Sons and Daughters of God

現代の真理
「キリストが戸をたたいておられる（Ⅱ）」 38
Good Way Series- 正道 -

力を得るための食事
「タイ風春雨サラダ」 44
レシピ

お話コーナー
「人がもった園の家庭（Ⅱ）」 46
聖書物語

【正丸教会】
〒368-0071　埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465
【沖縄集会所】
〒905-2261　沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136
アクセス www.4angels.jp
メール　sdarm.shomaru@gmail.com

発行日　2023 年 6 月 4 日
編集＆発行　SDA 改革運動日本ミッション
〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
Illustrations: Sakusabe on Front page; Sermon View on page 48
Printed in Japan

預言の経験

クロスの軍勢がバビロンの城壁の前に出現したことは、ユダヤ人にとっては捕囚から解放されることの近いしるしであった。…

ペルシャの征服者たちの軍勢が、水をよそに流して川を通ってバビロンの首都の中心に不意に侵入し、不用意にも無防備のまま開かれていた内壁の扉を通ってきたことは、ユダヤ人にとっては彼らの圧迫者の突然の崩壊に関する、イザヤの預言が文字どおりに成就した明白な証拠であった。そしてこれは、神が彼らのために諸国の動向を導いておられることの、動かすことのできないしるしでなければならなかった。…

捕囚の民が速やかに解放される望みを抱くに至ったのは、ただこれらの預言だけに基づいたのではなかった。彼らの手もとにはエレミヤの書物があった。…「主は言われる、七十年の終った後に、わたしはバビロンの王と、その民と、カルデヤびとの地を、その罪のために罰し、永遠の荒れ地とする」（エレミヤ書 25:12）。

ユダの残りの者たちに対しては、熱心な祈りに答えて恵みが与えられるのであった。…

ダニエルと彼の仲間たちは、神の民に対するみこころを描写した、これらの預言、また類似した預言をよく調べた。そして今や、急速な事件の展開が、諸国間に神の大いなるみ手が働いていることを示したときに、ダニエルはイスラエルに与えられた約束に、特別な注意を払ったのである。彼は預言の言葉を信じていたので、聖書の筆者たちが預言した経験へと導かれていった。「主はこう言われる、バビロンで七十年が満ちるならば、わたしはあなたがたを顧み、わたしの約束を果し、あなたがたを…導き帰る。主は言われる、わたしがあなたがたに対していだいている計画はわたしが知っている。それは災を与えようというのではなく、平安を与えようとするものであり、あなたがたに将来を与え、希望を与えようとするものである。その時、あなたがたはわたしに呼ばわり、来て、わたしに祈る。わたしはあなたがたの祈を聞く。あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば」（エレミヤ書 29:10-13）。（国と指導者下巻 159-162）

諸国の歴史と来たるべき出来事についての啓示において、神のみこころがどのように達成されるかを研究することは、見えるものと見えないものの真の価値を評価し、人生の真の目的が何であるかを学ぶ助けとなる。こうして、現世の出来事を永遠の光に照らしてみるときに、われわれはダニエルと彼の仲間たちのように、真実で気高く、永続するもののために生きることであろう。そしてわれわれは、われわれの主、救い主の永遠に続く祝福された王国の原則を現世において学び、彼がおいでになる時には、彼とともにその国に入って、それを自分のものとする準備が整うのである。（国と指導者下巻 157, 158）

聖書の教え

放蕩息子（Ⅲ）

青年が家を出たとき、美しく装い、よく栄養も取れていました。そしてわたしたちは、彼がその高貴な家族の一員という立場にふさわしく指輪をつけていたであろうと想像します。

この彼の冒険と不幸の中で、彼の美しい衣は「汚れた衣」に変わっていました。彼はおそらく自分の指輪を、自分自身が生き残るための何かの資源に換えて質に入れたかもしれません。彼は、ぼろをまとい、痩せて、栄養不足で、やつれて、はだしで戻ってきました。彼はかつては息子としての地位を享受していた家で、単なるしもべとしての地位に満足しようとしていました。

最上の着物はキリストの義の象徴で、悔い改める罪人に無償で提供されるものです。「わたしは主を大いに喜び、わが魂はわが神を楽しむ。主がわたしに救の衣を着せ、義の上衣をまとわせて、花婿が冠をいただき、花嫁が宝玉をもって飾るようにされたからである」（イザヤ 61:10）。

ゼカリヤ 3 章では、ヨシュアと御使のまぼろしの中で、最初に聖なるみ前に「汚れた衣を着て」現れます（3 節）。そのとき、主の御使、つまりキリストご自身が、ご自分の前に立っている者たちに「彼の汚れた衣を脱がせなさい」とお命じになります。その後、このお方はヨシュアに向かって「見よ、わたしはあなたの罪を取り除いた。あなたに祭服を着せよう」と言われました（4 節）。

罪人が悔い改めてキリストの足下に来るとき、彼の汚れた衣は取り除かれて、見事なキリストの義の衣、純潔なかがやく麻布でおおわれます。神はもはやわたしたちの罪の障害をご覧になることはありません。かえってわたしたちの代わりにイエスが生きられた純潔な生涯だけをご覧になるのです。神はあたかもわたしたちが罪を犯したことがないかのように、あたかも純潔であるかのように受け入れてくださいます。このお方がこれらのことをなさるのはすべて、わたしたちに代わってキリストが提供された義のゆえです。なんというすばらしい交換でしょう！

エレン・G・ホワイトは、この恵みの表れを次のような詩的な言葉で述べてい

ます。

「当然キリストが受けられるべきとり扱いをわれわれが受けられるように、キリストはわれわれが当然受けるべきとり扱いを受けられた。われわれのものではなかったキリストの義によってわれわれが義とされるように、キリストはご自分のものではなかったわれわれの罪の宣告を受けられた。キリストのものであるいのちをわれわれが受けられるように、キリストはわれわれのものである死を受けられた。『その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ』。」（各時代の希望上巻 11）。

指輪は、述べましたように、家族の高貴さの象徴です。それは青年が奴隷やしもべとしてではなく、高貴な家族の一員として彼に与えられていたすべての権利や特権と共に息子として受け入れられたことを示すもう一つの証拠でした。

奴隷ははだしで歩きます。家に戻った青年に履きものが与えられ、それらは息子に与えられる品物の中に含まれていました。彼は自分が完全に許され、義認され、家族の一部として受け入れられたことを感じます。これは、神がすべての悔い改めた罪人を扱われる方法です。人が許され、義認される間に必要な悔い改めそのものが、神の賜物です。

父親からのもう一つの命令によりしもべたちは失われていた息子を歓迎するための祝宴を準備させました。「肥えた子牛を引いてきてほふりなさい。食べて楽しもうではないか」（ルカ 15:23, 24）。

神のむすこ娘たち

Son and Daughters of God

7月

勇気をもって将来に直面する

キリストを告白する

「もし人が、イエスを神の子と告白すれば、神はその人のうちにいまし、その人は神のうちにいるのである。」（ヨハネ第一 4:15）

ヨハネがここで話している告白とは名ばかりの信仰の結果ではなく、生きておられる救い主のうちにとどまっている信仰の結果、すなわち、キリストの苦しみと死を通して、救いの祝福がわたしたちの手の届くところにもたらされたことを信じる結果のことである。そしてこのお方は死からよみがえり、わたしたちのためのとりなしをするために永遠に生きておられるのである。私達はイエスが自分の救い主であること、またこのお方がわたしたちを愛して、わたしたちのためにご自身を与えて下さらなかったなら、生命を享受することも、わたしたちが平安や希望を得ることもないことをはっきりと自覚しなければならない。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1898 年 1 月 6 日）

キリストの義を求めるわたしたちの要求は、わたしたちが約束されている条件に応じるなら、不備のないものである。神は一つの豊かな賜物のうちに全天をわたしたちにお与えになったのである。だから、わたしたちがキリストを個人的な救い主として受け入れるなら、この賜物に含まれているものは何であってもわたしたちのものである。…あなたを暗闇から驚くべきみ光に招き入れて下さったイエスをあがめつつ、このお方について語りなさい。このお方の憐れみについて語り、そのみ力について話すために舌を訓練しなさい。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1894 年 7 月 12 日）

クリスチャンの青年よ、あなたは全世界に、天使にも人々にも見世物である。神にあって勇敢でありなさい。神の武具で身をかため、あなたが神のすべての戒めに忠実に、また真実に立っているがゆえに、あなたの命が損なわれていないことを、あなたの周りにいる未信者に見させなさい。あなたは神のための確固たる証人となることができ、神はあなたがそうなることを命じておられる。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1894 年 7 月 12 日）

キリストが地上における伝道を閉じるにあたって、弟子たちに語られた励ましの言葉をわたしたちはよく考える必要がある。……残酷な死が目の前にあっても、弟子たちに対するキリストのみ言葉は希望にみちたものであった。このお方は弟子たちの心にできる限りの慰めをすべてもたらそうと望まれた。このお方にあって強くなろうではないか。（手紙 24，1912 年）

聖書を研究する

「これまでに書かれた事がらは、すべてわたしたちの教のために書かれたのであって、それは聖書の与える忍耐と慰めとによって、望みを抱かせるためである。」（ローマ 15:4）

この聖書は、神のご品性のすべてを雲と暗闇の中に隠してしまうために、悪人と団結してきたサタンの激しい攻撃の中を、堅く立ってきた。本当に、主はこの聖なる書を、ご自身の奇跡的な力で、現在の形に、すなわち人類家族に天国への道を示すための案内書、また海図として保ってこられた。……このみ言葉は……その導きを研究し、またそれに従うことによって、ただ一つの魂といえどもその道を迷うことがないようにと、堕落した世界に住む住民に残された案内書である。（イエスの証 11，13）

今ほど、キリストに従う者が聖書を研究することが大切な時はこれまでなかった。人を惑わせる影響が四方八方にあるので、あなたは最も親しい友であるイエスに相談することが絶対に必要である。……ダビデは「わたしはあなたにむかって罪を犯すことがないように、心のうちにみ言葉をたくわえました」と宣言している。どれほど多くの人が神のみ言葉を祈りつつ研究していないため、また罪の罪深さに気づかず、これに堅く抵抗できることに気がついていないため、罪に売りわたされていることであろうか。誘惑がくる時彼らは油断しているので、敵の策略に無知であるようにみえる。わたしたちは危険な時代に生きているので、地上歴史の閉じる時に近づくにつれ、神のみ言葉に精通していない者は安全ではない。……震われ得る者はみな震われる。……神の子らは巡礼の旅における最も危険に満ちた個所へさしかかっている。敵のわなや落とし穴が四方八方にあるからである。けれども主のみ言葉のうちにはっきりとあらわされている導きによって、わたしたちは安全に、つまずくことなく歩くことができる。……天からの声が、み言葉の各ページの中でわたしたちに話かけている。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1893 年 5 月 18 日）

神のみ言葉に対する服従が、世界を滅びへと押し流している悪に対する唯一の保護手段である。（チャイルド・ガイダンス 556）

主を信頼する

「人を恐れると、わなに陥る、主に信頼する者は安らかである。」（箴言 29:25）

主はあなたが勇気をもつことを望まれる。武具を身につけなさい。……サタンは信仰をくじき、人々を不幸にするためにあらゆる手段を使って働いているのである。手紙 29，1904 年

あなたにサタンの策略を見分けるにあたって、経験がないのであれば、唯一の安全は祈りにある。心の秘密をすべて、無限のお方の前に注ぎ出し、あなたを純潔にまた強めて下さるようにと、また人生の大闘争のために完全に武装させてくださるようにと、神に嘆願しなさい。信仰は疑いとの闘争によって成長し、徳は誘惑に抵抗することによって強められる。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1873 年 4 月）

すべての祝福はイエス・キリストと生きたつながりを持っている人々に与えられる。イエスは単に数時間、ご自分の恵みと臨在をもってわたしたちの元気を回復し、またご自分から離れて悲しみと薄暗闇の中を歩くようにとわたしたちを送り出すために、ご自分のもとへ招いたりはされない。いいえ、このお方は、わたしたちがみそばにおり、ご自分もわたしたちと共に住まなければならないと仰せになる。み働きがなされるべき所にはどこにでも、優しく、愛情に満ち、あわれみ深く臨在しておられる。イエスは、あなたとわたしのために、ご自身のうちに共に住む住まいを用意された。このお方はわたしたちの避難所である。わたしたちの経験は広くまた深くならなければならない。イエスは、言い表すことのできないほどの愛という神の満ちみちたすべてを開かれた。……勇気を語り、信仰を語り、希望を語りなさい。主にある兄弟姉妹よ、勇気を持ちなさい。ああ、わたしたちは自分の前に何があるかをほとんど知らないのである。自分自身をイエスに完全に捧げて、まったくこの方のものとなり「ああ神よ、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」と、わたしたちは言うのである。……あなたは救い主の優しい愛と思いやりを持っている。このお方はわたしたちの弱さと、わたしたちが必要とするすべてのことを知っておられ、わたしたちのために十分な恵みを与えて下さる。ただ絶えずイエスを見つめて勇気を持ちなさい。（手紙 1a1894 年）

本物の信仰のうちには回復する力、時間も骨折りも弱めることのできない堅い原則がある。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1898 年 4 月 21 日）

主の道を歩む

「主は、まっすぐに歩む者には城であり、悪を行う者には滅びである。」（箴言10:29）

わたしたちが初めから神の勧告に従って歩んでいたなら、もっと多くの人々が現代の真理に改心していたことであろう。しかし多くの者は自分たちの道を曲がったものにしている。兄弟方よ、足のなえている者が踏みはずすことのないように、まっすぐな道をつくりなさい。あなた自身が、道に迷うことがないように、それだけではなく、他の人のために、もっと平らな道にするべきである。他の人が作った曲がった道に誰もついて行ってはならない。あなた自身のために、従順の道を歩く決心をしなさい。あなたは全能の神の広い盾のもとに立っていることを確かに知りなさい。エホバのご品性があなたの生活にあらわれなければならないこと、また、あなたの品性を神のかたちに形造る働きが、あなたのうちに成し遂げられなければならないことを悟りなさい。すべての頭であられるお方の導きにあなた自身をゆだねなさい。

わたしたちは審判のために自分の働きをしている。イエスについて学ぶ者になろう。一瞬一瞬このお方の導きをわたしたちは必要としている。一歩ごとにわたしたちは「これは主の道だろうか」と尋ね、「これはわたしを支配する人の道だろうか」と尋ねてはならない。わたしたちが主の道を歩んでいるかどうかだけに関心を持つべきである。

キリストの恵みの完全さにあって神のみ前に歩もうとする忠実で熱心なあらゆる魂に、神は栄誉を授け支持される。このお方はへりくだった震える魂を一人として放っておいたり、見捨てたりはなさらない。わたしたちはこのお方がわたしたちの心のうちに働かれることを信じようではないか。そうして下さるままにまかせるなら、神はご自分の豊かな恵みによって、わたしたちをご自分の共労者と見なしつつ、純潔で聖なる者にして下さる。わたしたちに価値があるからではなく、キリストの義を求める信仰によって、わたしたちは鋭敏な清められた完全さをもって、神のみ約束の力強さを感謝し、自分のものとすることができないだろうか。（原稿96，1902年）

神の子らに対する神の愛ほど大いなる力強いものはない。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1906年3月15日）

完全な愛を喜ぶ

「愛には恐れがない。完全な愛は恐れをとり除く。恐れには懲らしめが伴い、かつ恐れる者には、愛が全うされていないからである。」（ヨハネ第一 4:18）

これは重要な声明である。というのは神を愛し、神に仕えたいと願う者は多くいるが、災いがふりかかると、その災いの中に神の愛をはっきりと見ないで敵の働きだけを見るからである。彼らは嘆き、つぶやき、不平を言う。しかしこれは魂のうちにある神への愛の実ではない。わたしたちが完全な愛を持っているなら、神はわたしたちを害しようとしておられるのではなく、試練と悲しみと痛みのただ中で、わたしたちを完全な者とし、わたしたちの信仰の質を試そうとしておられることを知る。わたしたちが将来について悩むことを止め、神がわたしたちを愛しておられることを信じ、わたしたちに善をなすおつもりであることを信じ始める時、わたしたちは、子供が愛する両親を信頼するように、この方を信頼する。その時わたしたちの困難や苦悩は消え去り、わたしたちの意志は神の意志にのみ込まれる。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1898 年 1 月 6 日）

共にいてくださるキリストを通して、あなたは品性においてキリストのようになる。主は、あなたがご自分のそばに親切で忍耐強く謙遜な神の息子として立つことを望んでおられる。主はご自分の奉仕における働き人たちが、ご自分の愛をあらわすことを計画しておられる。……

わたしたちの互いの関係は快いものであるべきである。わたしたちが正しいことを行う時、わたしたち自身と神のみ霊の証は人の思いが神の思いの支配のもとにあるという証拠を提示する。……神のみ言葉は、わたしたちが本当に神の息子、娘であるという結論を引き出すことのできる証拠を十分に備えている。……神に対する真の愛は真の敬虔な信頼を伴う。だから神を愛する人は自分の兄弟も愛するのである。（手紙 174 a 1902 年）

「いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである」すなわち全能の神をしっかりとつかみ、当惑させられることを拒む信仰、善と真理という将来の勝利を現在の励ましと喜びにする希望、そして、神に対し、また神のためにすべてを捧げる愛である。（手紙 42，1901 年）

神の律法と調和して生きる

「ただ強く、また雄々しくあって、わたしのしもべモーセがあなたに命じた律法をことごとく守って行い、これを離れて右にも左にも曲ってはならない。それはすべてあなたが行くところで、勝利を得るためである。」（ヨシュア 1:7）

神は人々、すなわち御目に正しい人々を召される。改革が教会に持ち込まれなければならない。十戒に対するいにしえの崇敬の念が男女の心に、今戻る必要がある。この戒めに対する従順を通して、人性が清められなければならない。それによって無神論は消え去り、わたしたちの信仰の基礎が明らかにされ、神の聖なる律法の規範すべてが実施される。個人的な責任についての自覚がおきるべきである。人は主にある人と見なされるために、自分たちの行動の原因が正しく、純潔で真実でなければならないことを覚えるべきである。（原稿 24, 1891 年）

男女はキリストのために負うよう召されている非難を避けることができ、違反者の子らとしての働きをすることも可能である。しかし、これを行うなら必ず、彼らは悪事を行う者の報いを受ける。彼らは栄誉ある地位へ上がることができ、世の中で高い地位を占めて、高慢な心で、天に起源をおく真理に抵抗することもできるが、最後にはすべてを失う。

わたしたちの幸福と救いは生命のパンを食べることによる。これはみ言葉に従い、キリストのみ働きを行い、正義を前進させ、不義を止めることである。神の律法の要求に対する真の認識ほど自己依存を止めさせ、勇気を与え、才能と能力を増すことのできるものはない。……イエス・キリストに対する愛はわたしたちを神の戒めへと導く。この戒めはわが足のともしび、わが道の光であり、明るくし、純潔にし、祝福に満ちたみ父とみ子のご臨在をわたしたちのために確保してくれるものである。従順な人はエノクがそうであったように、神との交わりができるのである。（手紙 29，1900 年）

安息日を守る

「モーセは民に言った、「恐れてはならない。神はあなたがたを試みるため、またその恐れをあなたがたの目の前において、あなたがたが罪を犯さないようにするために臨まれたのである」。」（出エジプト 20:20）

主の戒めを守る立場をとるには道徳上の勇気が必要である。七日目を安息日として守るために教会から去ろうとする者は……勇気のない人々だけであると、かつて真理に反対する人々は言った。しかし真理を受け入れたある牧師は「もしあなたがそうするのは勇気のない人々であると思うのなら、やってみなさい」と答えた。そうすることは道徳上の勇気、堅固さ、決心、そして人気のない側に一歩を踏み出すために、忍耐と非常に多くの祈りを要求する……

全能の神の広い盾のもとに立つことによって、わたしたちは自分たちが少数派であるとは感じない。神は絶対多数であられる。……キリストはわたしたちを光として、道徳的暗闇のただ中に置かれたことを熟考するべきである。わたしたちは神のご品性を誤解する者であってはならず、いらいらしたり、自分が思うことを口に出し、他の人を非難したり、批評したり、酷評すべきではない。むしろ聖霊が品性をキリストに似た者に形造って下さるようにすべきである。

今、わたしたちがおまかせするなら、イエスがわたしたちのために何をしてくださるかを見ようではないか。弟子たちのための祈りの中で、イエスは「今わたしはみもとに参ります。そして世にいる間にこれらのことを語るのは、わたしの喜びが彼らのうちに満ちあふれるためであります」と仰せになった。キリストに従うことによって喜びを持つことは可能だろうか。これこそどの魂でも持つことのできる唯一の喜びである。（原稿 37，1894 年）

救い主があなたを一人で闘うために、放って離れてしまわれるということがあるだろうか。決してない。……飢饉がこの世におころうとしている。そしてかつてなかったほどの悩みの時があるであろう。戦争と戦争のうわさがあり、人々の顔はあおざめるであろう。あなたは悩みに苦しまなければならないかもしれない。ある時は飢えるかもしれない。しかし神はあなたを苦しむままにしてはおかれない。神はあなたの信仰を試される。……わたしたちはこの地上でキリストを世にあらわし、キリストとその力を人類に表明しなければならない。（伝道 240, 241）

神は力と愛の霊を与えられる

「というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。」（テモテ第二 1:7）

わたしたちは今、真理のために堅く立たなければならない時代にいる。わたしたちは魂に対する愛を大切にしなければならないが、決して真理のきわめて重要な点をわずかといえども放棄してはならない。なぜなら真理、純潔で混ぜ物のない真理によって、今の世にわたしたちは導き手であるイエス・キリストに栄光とほまれを帰すことができるからである。み言葉は生命のパンであって、み言葉のうちに、キリストの弟子たちはキリストの肉を食べ血を飲んでいること、すなわちキリストのみ言葉が自分の生涯に織り込まれていることが表されている。真理にうそはない。もしわたしたちが初めの確信を終りまで堅く保つなら、真理は偽りの教理に対する防御となる。……

神への信仰を働かせ、み言葉に従うことによって、キリストの側近くに居つづけよう。主は、ご自分の民に教えを受ける気持があれば教えられる。わたしたちはキリストの教訓を聞くことのできる所に立つことができる。わたしたちには生ける神と生けるキリストがおられる。悪の全軍団は人の思いを捕らえるための機会をうかがっているが、わたしたちがみ言葉に密着している限り打ち負かされることはない。「こういうわけで」とパウロはテモテに言った、「あなたに注意したい。わたしの按手によって内にいただいた神の賜物を、再び燃え立たせなさい。というのは神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と健全な思いとの霊なのである。」

わたしたちはイエス・キリストのうちにある生ける信仰を持つ必要がある。敵が洪水のように押しよせる時、主が敵に対して、わたしたちのために旗を掲げて下さるために、信仰を働かせる必要がある。神に対する純真な心はしばしば祈りによる。一片の落胆といえどもあなたにふりかからせてはならない。わたしたちはキリストのみ言葉を教えつつ、神のご品性とみ働きを熟考しなければならない。勇気を持ちなさい。あなたの勇気とイエス・キリストへの絶えまない信頼が、他の人々のうちに信仰心を抱かせ、信仰と愛を増し加えるようにしなさい。（手紙 78,1906）

神のみ前にあるという意識は恐れを取り除く

「わたしはあなたに命じたではないか。強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない、おののいてはならない」。」（ヨシュア 1:9）

臆病な子供は恐怖心のために人生を重荷に感じるが、それは神のみ前にあるという意識によってのみ払いのけることができる。「主の使は主を恐れる者のまわりに陣をしいて彼らを助けられる」という御約束を彼の記憶にきざみこませなさい。山の都市で、エリシャと武装した敵の軍勢との間を天使の大軍勢がとりまいていたというふしぎな話を彼に読ませなさい。死刑を宣告されて獄中にあったペテロに神の天使があらわれ、武装した番兵と重い戸とかんぬきのかかった鉄の大門を通りすぎて、この神のしもべを安全に連れ出したことを読ませなさい。あらしにほんろうされた兵士と船員たちが、働きと見張りと幾日もの断食に疲れ果てたときに、審問と処刑のために道中にあった囚人パウロが、彼らに向かって、「元気を出しなさい。…あなたがたの中で生命を失うものは、ひとりもいないであろう。昨夜、わたしが仕え、また拝んでいる神からの御使が、わたしのそばに立って言った、『パウロよ、恐れるな。あなたは必ずカイザルの前に立たなければならない。たしかに神は、あなたと同船の者を、ことごとくあなたに賜わっている』」と、勇気と希望に満ちた堂々たる言葉を語ったときのあの海上の光景について読みなさい。この約束を信じてパウロは「たしかに髪の毛ひとすじでも、あなたがたの頭から失われることはないであろう」と仲間に保証し、そして実際その通りになったのである。船の中に、神がその人を通して働くことのできる人がひとりいたために、船全体の異教の兵士と船員たちの生命が救われたのである。……

自信のない者は、独立独行の精神に欠けているために苦労や責任を避けたがるが、このような人には神に信頼することを教えなければならない。そのままでは世の中の役に立たない人間、おそらくは無力なやっかい者にすぎない多くの人間が、このようにして使徒パウロと同じように「わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができる」と言うことができる。（教育 302, 303）

神の恵みといつくしみは勇気を吹き込む

「わたしの生きているかぎりは、必ず恵みといつくしみとが伴うでしょう。わたしはとこしえに主の宮に住むでしょう。」（詩篇 23:6）

キリストはわたしたちに、品性の完全に到達することが簡単なことであるとの保証を与えてはこられなかった。これは日毎の闘争、闘い、進軍である。わたしたちが天の王国へ入るには多くの苦しい試練を経る。キリストの栄光にこのお方と共にあずかるために、わたしたちはこの方の苦しみにもあずからなければならない。……このお方はわたしたちのために勝利されたのである。それならばわたしたちは前進する時に出会う試練を思って、臆病になるのだろうか。……

わたしたちが神の憐れみと慈愛をもっと深く感謝する時、不平を言う代りに神を賛美する。わたしたちは主の愛に満ちた見守りについて、また良い羊飼いであられる方の優しい思いやりについて語る。心のうちにある言葉は利己的なつぶやきや愚痴ではない。澄んだほとばしる小川の流れのような賛美が、神の真の信者の口から出る。彼らは「わたしの生きているかぎりは必ず恵みといつくしみとが伴うでしょう。わたしはとこしえに主の宮に住むでしょう」と言う。……

わたしたちの巡礼の日々に霊的な歌声がなぜおこらないのであろうか。……わたしたちは神のみ言葉を研究し、瞑想し祈る必要がある。その時わたしたちは天の宮の中をはっきりと見るために、霊的視力を持つようになる。御座のまわりで歌っている天の聖歌隊の感謝のしらべをとらえる。シオンが立って輝く時、その光は拡散するようになり、賛美と感謝の歌は聖徒の集まりの中で聞こえるであろう。落胆や困難はわずかといえども忘れ去られる。

主はわたしたちの助けである。……神を信頼して裏切られた者はいない。神はご自分に頼る者を決して落胆させたりはなさらない。わたしたちがイエスのみ足の跡を歩みつつ、主がわたしたちにさせたいと望まれる働きだけを行おうとするなら、わたしたちの心は世の罪を取り除くために、神につかわされたお方に対する賛美と感謝を響かせる聖なる立琴、一本一本の弦となるであろう。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1910 年 5 月 5 日）

神への賛美は勇気をもたらす

「彼はまた民と相談して人々を任命し、聖なる飾りを着けて軍勢の前に進ませ、主に向かって歌をうたい、かつさんびさせ、『主に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない』と言わせた。」（歴代志下 20:21）

「彼はまた……主に向かって歌う人々を任命し、清さの美しさをさんびさせ、軍勢の前に進ませた」……彼らは勝利のゆえに神をほめたたえ、その四日後、敵の戦利品を背負って、勝利を得た喜びの賛美をしつつ、エルサレムへ帰ってきた。

もしこのことが今もっとなされるなら、わたしたちの希望と勇気と信仰が回復すると、あなたは思わないだろうか。真理を守って立っている兵士たちの手は強められないだろうか。主にもっとたくさん賛美がなされ、意気をくじく悲しい声が少なくなればなるほど、はるかに多くの勝利が得られるのだが。

神はあらゆる慈しみについて、永遠に絶えることのない泉であられる。このお方を信頼する者はみな、神が泉であることがわかる。ご自分を天父として見つめつつ、ご自分に仕える者に対して、神はみ約束を成就するという保証をお与えになる。このお方の喜びが彼らの心のうちに宿り、彼らの喜びは満たされる。

自分の心を開いて、キリストのご臨在という日光を迎え入れるのは、わたしたちの特権である。兄弟姉妹方よ、光に顔を向けなさい。あなたは高揚し回復している感化を働かせることができるようにキリストと個人的に交わりなさい。あなたの信仰を強め、純潔にまた堅くしなさい。神に対する感謝の念が心を満たすようにしなさい。朝起きた時、ベッドのそばでひざまづいて、その日の義務を果し、誘惑に対処する力を与えて下さるようにと神に求めなさい。あなたの働きにキリストの柔和な品性を持ち込むために、助けを求めなさい。あなたの周りの人々に希望と勇気を与え、あなたを救い主にもっと近く引き寄せる言葉を語るために助けて下さるよう願いなさい。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1910 年 5 月 5 日）

光のうちを歩むことは勇気をもたらす

「あなたがたは、以前はやみであったが、今は主にあって光となっている。光の子らしく歩きなさい。」（エペソ 5:8）

「光の中を歩きなさい。」光の中を歩くというのは、決心して、思いを訓練し、意志の力を働かせて、熱心に努力して品性の麗しさのうちにキリストを表わすことである。あなたは「わたしは神の子である」ということで、簡単に満足してしまうべきではない。あなたはイエスを見つめつつ、また見つめることによってキリストに似た者に変わっていっているだろうか。光の中を歩くとは、霊的能力において前進、また進歩することである。パウロは「わたしがすでにそれを得たとか、すでに完全な者になっているとか言うのではなく、ただ……後のものを忘れ」絶えずお手本である方を見つめつつ、「前のものに向かって」手を伸ばすのであると宣言した。光の中を歩くとは「誠実に歩み」「主の道を」歩み、「信仰によって歩み」「み霊のうちを歩み」「真理に歩み」「愛に歩み」「新生のうちに歩」むことである。それは「神を畏れてまったく清くな」ることである。

自分自身に影と薄暗がりをもたらすことによって、他の人々の道を暗くするのは本当に恐ろしいことである。あなたの品性の欠陥を他の人のせいにしてはならない。……光のことを語り、光の中を歩きなさい。「神は光であって、神には少しの暗いところもない」……世の光である方からだけ来ることのできる勇気を、あなたの魂に集めなさい。（手紙 98,1902 年）

天の光が人に向かって輝く時、その人の顔は主のうちにある喜びを表現する。人々を悲しませ疑い深い思いにする魂にはキリストがおられない。悲しげな表情をしたり、その人生がため息をつくような巡礼の旅であるのはキリストがおられないからである。喜びは神を受け入れるすべての者にとって、神のみ言葉の根本思想そのものである。なぜだろうか。彼らが生命の光であられる方を持つからである。光は喜びとうれしさをもたらす。そして喜びは人生と品性の中であらわされる。（原稿 96，1898 年）

他の人々の冷たさから勇気を集める

「また不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えるであろう。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。」（マタイ 24:12, 13）

「また不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えるであろう。」大気そのものが罪で汚れている。まもなく神の民は火のような試練で試みられ、今は本物であり真実な人のように思える人々のうち非常に多くの者が不純物の入った金属であることを証明する。反対や脅迫、また悪口によって、強められ堅くなる代りに、臆病にも反対者の側につく。み約束は「わたしを尊ぶ者を、わたしは尊」ぶである。……

神の審判は嵐や洪水、大嵐、地震、陸や海での災難に見られるように、すでに地に広くゆきわたっている。わたしは有ると言われる偉大な方が、ご自分の律法を無効にしている者に語りかけておられる。神の怒りが地上に注がれる時、誰が耐えることができるだろうか。今は神の民にとって、自分が原則に忠実であることを示す時である。キリストの宗教が最もさげすまれ、その律法が最も軽蔑される時、その時こそわたしたちの熱意が最も高まり、勇気と確信が最も断固たるものになるべきである。大多数がわたしたちを見捨てる時に、真理と正義を守って立つこと、また、すぐれた者がほとんどいない時に主の戦いを戦うこと、すなわちこれがわたしたちのテストとなる。今この時にわたしたちは他の人々の冷たさから温かさを集め、彼らの臆病から勇気を、彼らの反逆から忠誠を集めなければならない。……

わたしたちの救いの将は、ご自分の民が交戦しなければならない戦いのために、彼らを強くされる。……

今は、わたしたちが神と密接に交わらなければならない時である。それによって神の激しい怒りが人の子らに注がれる時、わたしたちが隠れることができるためである。（教会への証 136, 137）

他の人々の冷たさから温かさを、彼らの欠点から勇気を、彼らの反逆から忠誠を集めるすべての者は第三天使の使命で勝利を得る。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1897 年 6 月 8 日）

強くなれ、神がわたしたちと共におられるから

「勇気を出せ。主は言われる。この地のすべての民よ、勇気を出せ。働け。わたしはあなたがたと共にいると、万軍の主は言われる。」（ハガイ 2:4）

主は、この終わりの時代において、この大いなる救いを無視し拒む悪人たちと結合したサタンの代理人たちと、ご自分の民との闘争についてよく知っておられる。

この上ない単純さと誠実さをもって、天の軍勢の力強い司令官であるわたしたちの救い主は、民が経験するはずのきびしい闘争を隠したりはされない。このお方は危険を指摘し、その戦いについての計画と果すべき困難で危険な働きをわたしたちに示される。それから、闘争に入る前に、どれほどの犠牲が払われるか考えなさい。同時にすべての者が戦いの武器を取り上げ、真理と正義を守る戦いにおいて、天軍が加わることを待ち望むようにと励まされる。全能の神の働きをなすためのあらゆる厳しい闘争において、人の弱さは超自然の力強さと助けを見出す。また信仰における忍耐と神に対する完全な信頼は成功を保証する。

過去において、悪の連合が民に対して戦闘配備をした際、神は、民には勝利するために天があり、自分たちの隊列に一人以上の天使がいて、軍隊の力強い将が天軍をひきいておられるのだから、勇敢に勇気を出して、雄々しく戦うようにと命じられる。エリコを陥落させた場合のように、イスラエル軍の一人といえども街の城壁をくずすために自分たちの有限な力を用いたと自慢できないように、主の軍勢の将がこの上なく単純に戦いを計画された。それは主だけが栄光をお受けになり、人が高められることのないためであった。神はわたしたちにすべての力を約束された。この約束はわれらの主なる神の召しにあずかるすべての者、すなわちあなたがたと、あなたがたの子らと、遠くの者一同とに与えられているものである。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]2 巻 995, 996）

信仰はあらゆる妨害を押し分け、すべての障害を無効にし、敵の陣地の中心部に旗をたてる生きた力である。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 4 月 14 日）

勇気と力が今日必要とされる

「しかし、わたしがあなたをながらえさせたのは、あなたにわたしの力を見させるため、そして、わたしの名が全地に宣べ伝えられるためにほかならない。」（出エジプト 9:16）

クリスチャン生活は多くの人が考えている以上のものであって、ただ優しく、忍耐強く、柔和で、親切なだけではない。こうした美徳はたいせつであるが、勇気、力、元気、不屈の精神も必要である。

しっかりした力のある人間が必要とされている。障害物がすべて取り除かれ、前途が平坦になるまで待っていない人、落胆した働き人をはつらつとした元気をもって鼓舞する人、その心はクリスチャンの愛であたたかく、主の働きをするにふさわしいじょうぶな手の持ち主、こう言うたぐいの人を要するわけである。

伝道に従事している人の中には弱い、無気力な、勇気のない、失望しやすい人がいて、奮発心がなく、なんでもやろうという熱意を起す精神と力に欠けて、積極的な性格がない。成功したいと思う者は勇敢で希望にみちていなければならない。消極的な長所だけではなく、積極的な長所も養わなければならない。怒りをそらす柔らかい答を与えると同時に悪に抵抗する英雄的勇気も持っていなければならない。万事に耐える愛を持つとともに、その感化を決定的な力とする強い性格が必要である。

性格のしっかりしない人がいる。……この柔弱、優柔不断、無能力に勝利しなければならない。……

力がある人間とは、反対をうけ、計画が破られ、妨害された人である。こうした人は力を働かせることによって、ぶつかった障害物も実際には祝福とする。そして自信を持つようになる。衝突や困惑は神に対する信頼と力を大きくする確固としたものを要求する。（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 483-486）

青年は強いので神は彼らを召される

「父たちよ。あなたがたに書きおくったのは、あなたがたが初めからいますかたを知ったからである。若者たちよ。あなたがたに書きおくったのは、あなたがたが強い者であり、神の言があなたがたに宿り、そして、あなたがたが悪しき者にうち勝ったからである。」（ヨハネ第一 2:14）

これらの是認と教えの言葉は正義の武具を身につけるすべての青年に話かけられている。彼らは若くて強いので、神を唯一の頼みとするなら、神のために大きな働きをすることができる。「父たちよ」と呼びかけられている年配の人々には原則を掲げて行うための明確な仕事がある。しかし彼らは人生の重荷の重圧を負っているので若い人々がイエス・キリストについての知識に経験を得ることを自分自身の義務にふさわしいものとするようはげまされるべきである。そうすることによって旗印が先駆者から伝えられる時、若い人々はそれをつかみ、高く掲げることができる。……

隠れた宝を求めて聖書を探る若い人々が、現代たくさんいる。そして真理の宝を見出すと他の人々の思いにそのみ言葉という宝を開くのである。……「あなたがたが強い者であり」とは、単に身体的に強いばかりではなく、思いが考えるように訓練されて、節制の習慣を厳しく実行することにより、心がはっきりと、また強く保たれていることを指している。これは若い人々が熱心に敵と戦って、日毎の生活でイエス・キリストの宗教につながり、日毎の義務や喜びにキリストが内住されることによって敵に勝利することを意味する。彼らが神性にあずかるということである。

自分自身を神の奉仕に捧げている青年は、主の戦いを勇敢に戦う立場にある。青年にキリストを手本とさせなさい。そうすれば彼らは公義を行い、いつくしみを愛し、自分の神と共にへりくだって歩く。その時彼らは強いのである。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1894 年 10 月 25 日）

品性は試みられる。……日毎に、また年毎にわたしたちは自己を克服し、気高い勇敢さを発達させる。（ｻｻﾞﾝ・ｳｫｯﾁﾏﾝ 1905 年 2 月 7 日）

従順の勇気がはっきりと示された

「み使が言った、「わらべを手にかけてはならない。また何も彼にしてはならない。あなたの子、あなたのひとり子をさえ、わたしのために惜しまないので、あなたが神を恐れる者であることをわたしは今知った」。」（創世記 22:12）

神の命令に従った……アブラハム……はイサクを連れて旅を続ける。彼は神が自分に語られた山、そこで犠牲を捧げるようにとはっきりと指示される山を目の前に見る。僕の肩からたきぎをおろし、捧げ物であるイサクに背負わせる。アブラハムは自分の魂を苦痛にみちた厳しさと堅固さで締めつけ、神が自分に行うようにと要求される仕事の準備をする。はり裂けそうな心と力の抜けた手で、火をとる。その間イサクは「父よ、ここに火とたきぎとはありますが、供え物はどこにありますか」と尋ねるが、ああ、アブラハムは今言うことはできない。父と子は祭壇を築く。そして、アブラハムの魂を旅の間中苦しめていたこと、イサク自身が犠牲であることを知らせなければならない恐ろしい瞬間がくる。イサクは小さな子供ではない。彼は立派に成長した若者である。彼は自分がそうしようと思えば、父親の計画に従うのを拒むこともできた。が父親を精神錯乱だと責めることなく、その目的を変えさせようともせず、服従する。彼は父の愛を信じ、神がそうするようにと命じられなければ、自分の一人子をこの恐ろしい犠牲にするつもりはないことを信じる。

神が仰せになったので、イサクはあわれな父親のふるえる、愛情にみちた手でしばられる。息子は父親の高潔さを信じているので、犠牲になることを甘受する。しかしすべての用意が整い、父親の信仰と息子の従順が完全に試された時、神のみ使いは、息子を殺すためにふり上げたアブラハムの手を抑え、それで十分であると告げる。（教会への証 3 巻 368）

どのような状況のもとでも進んで神に従うためには大いなる勇気が必要である。（原稿 146, 1902 年）

わたしたちはキリストを愛し、キリストに従うことによってのみ、このお方を知ることができる。主は勇敢な人々、失敗したり、失望しない人々を召しておられる。（原稿 19, 1892 年）

エリヤは失望しなかった

「七度目にしもべは言った、「海から人の手ほどの小さな雲が起っています」。エリヤは言った、「上っていって、『雨にとどめられないように車を整えて下れ』とアハブに言いなさい」。」（列王紀上 18:44）

エリヤの経験の中に、わたしたちにとって重要な教訓が示されている。カルメル山の上で雨を求めて祈りを捧げた時、彼の信仰は試されたが、自分の願いを神にたゆまず知らせ続けた。彼は熱心に 6 度祈ったが、嘆願がかなえられたしるしはなかった。しかし、強い信仰をもって彼は自分の嘆願を恵みの御座に捧げ続けた。6 度目に失望してあきらめていたなら、彼の祈りは応えられなかったのである。……わたしたちには、わたしたちの嘆願に耳を閉ざすことのない神がおられる。だからわたしたちが神のみ言葉を立証するなら、神はわたしたちの信仰を認められる。神はわたしたちの関心がすべて、ご自分の関心に織り込まれることを望まれる。そうすれば、間違いなくわたしたちを祝福することができるからである。なぜなら祝福がわたしたちのものとなる時、わたしたちが自己に栄光を帰さないで、ほまれをすべて神に帰するからである。わたしたちが神に呼ばわる時、常にわたしたちの祈りに答えて下さるわけではない。もし神がこのようにされるなら、神がわたしたちに与えてくださったすべての祝福や好意に権利があるかのように思うからである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1913 年 3 月 27 日）

エリヤが祈っている間、僕は見張っていた。……彼が自分の心を探った時に、自分自身の見るところでも、神の御目にも、自分がどんどん小さくなるように思えた。自分は何もなく、神がすべてであるように思えた。そして、彼が自己を放棄する地点に到達した時、救い主を自分の唯一の力であり義としてすがりついたその時に答えがきた。ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1891 年 5 月 26 日）

人がどんなに特別な働きを遂行するにあたって勇気があり成功しても、神を絶えず見上げていなければ、自分の信仰を試みる状況が起こった時、勇気を失う。たとえ神がご自分の印のついたしるしを彼にお与えになった後でも、彼が神のみ働きをなすために強めて下さった後でも、彼は全能の神を絶対に信頼するまでは失敗する。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1913 年 10 月 16 日）

カレブとヨシュアが必要とされる

「そのとき、カレブはモーセの前で、民をしずめて言った、「わたしたちはすぐにのぼって、攻め取りましょう。わたしたちは必ず勝つことができます。」（民数記13:30）

第三天使は神の戒めとイエスの信仰を布告しつつ、中空を飛んでいる。これはこの終りの時代になされるべき働きを表わしている。このメッセージは前進することにより力を失うことはない。地上全体が神の栄光に満たされるまでその働きが力を増し加えるのをヨハネは見る。「神を畏れ、その戒めを守れ。神のさばきの時がきたからである」というメッセージは大声で伝えられるべきである。人々は増し加わる熱心さと活動力をもって、主の働きを前進させなければならない。家庭で学校で教会で、男女も青年も世界にこの使命を伝える準備をするべきである。……今、今こそわたしたちはカレブとヨシュアを必要としている。最前列で押し進む、強くて熱心なまた献身的な若い男女をわたしたちは必要としている。（手紙134, 1901年）

今日わたしたちは完全に誠実な人、まったく主に従う人、語るべき時には沈黙しない人、原則には剛鉄のように強い人、見えを張らないで、神と共にへりくだって歩み、忍耐強く、親切丁寧で礼儀正しい人、祈りの科学は信仰を実践することであり、神の栄光と神の民の益について語る働きを示すことであることを理解している人を必要としている。……イエスに従うには、最初から心からの改心を必要とし、この改心を毎日繰り返す必要がある。（SDAﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]1巻1113）

カレブに勇気を与え、人を恐れないで、正義を守るにあたって、勇敢にひるまないで立つことができるようにしたのは、神への信仰であった。同じ力、天軍の力強い将に寄り頼むことにより、十字架のあらゆる真の兵士は、克服できないように見える障害に勝利する力と勇気を受けることができる。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1912年5月30日）

ペリシテ人を敗走させた勇敢な二人の若者

「ヨナタンはその武器を執る若者に言った、「さあ、われわれはこの割礼なきものどもの先陣へ渡って行こう。主がわれわれのために何か行われるであろう。多くの人をもって救うのも、少ない人をもって救うのも、主にとっては、なんの妨げもないからである。」（サムエル上 14:6）

サウルの息子ヨナタンのうちに、主は真に高潔な人、すなわち、主が近く引き寄せ、感動させることのできる心をもった人を見られた。……

この二人の人は人間の司令官以上の方の戒めと命令のもとに行動していることを証拠だてた。外面的には、彼らの冒険は軽率ですべての軍紀に違反していた。しかしヨナタンの行動は人間の軽率さでなされたのではなかった。彼は自分と従者自身ができることに頼ったのではなく、神がご自分の民イスラエルのために用いられた器であった。彼らは計画をたて、神のみ手のうちに自分たちの働きを委ねた。もしペリシテ人の軍隊が彼らにいどむなら、彼らは立ち向かうつもりであった。もし彼らが「来い」と言えば彼らは前進するつもりであった。……ヨナタンと従者は主のしるしを求め、挑戦がきて、しるしが与えられた。この二人は自分たちの希望を神のうちにおき、前進した。勇敢な冒険家にとってたやすい道はなかった。彼らは頂上へ着くために険しい道を登った。……

ペリシテ人にとって、勇敢で大胆な二人を殺すのは簡単なことのように思われたが、このたった二人の人が自分たちの敵になるとは思い至らなかった。不思議に思っていたペリシテ人は眺めていたが、彼らに対して何もすることができなかった。彼らはこの二人を脱走兵だと見なし、危害を加えないで自分たちのところへ来ることを許した。……「ペリシテ人はヨナタンの前に倒れた。武器を執る者も、あとについていってペリシテ人を殺した。」……この大胆な働きは陣営中に恐怖を起させた。そこに倒れていた 20 人の死体が、敵の目には戦いの準備をした何百人もの人々に見えた。天軍がペリシテ人の反対の軍勢にあらわれた。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1898 年 11 月 24 日）

モーセのような人をもっと必要としている

「民はモーセが山を下ることのおそいのを見て、アロンのもとに集まって彼に言った、「さあ、わたしたちに先立って行く神を、わたしたちのために造ってください。わたしたちをエジプトの国から導きのぼった人、あのモーセはどうなったのかわからないからです。」（出エジプト 32:1）

モーセの不在中、司法権がアロンにゆだねられていたので、大群衆は彼の天幕に集まって、「さあ、わたしたちに先立って行く神を、わたしたちのために造ってください。」と要求した。……こうした危機には、確固とした決断と、なにものにもくじけない勇気の人が必要であった。それは、自分の人気や身の安全、自分の生命そのものよりも、神の栄光を重んじる人である。……アロンは一応人々をいさめた。しかし、危機に臨んでためらい恐れる彼の態度は、ますます人々をかたくなにするだけであった。騒ぎは大きくなった。……アロンは、自分の身の安全を気づかった。彼は、神の栄光のために勇敢に立つかわりに、群衆の要求を受け入れた。アロンがまず第一にしたことは、すべての人々から金の耳輪を集めて、彼のところに持って来させることであった。そうすれば、彼らは虚栄心から、そのような犠牲を拒否してくるものと内心希望していた。しかし、彼らは快く装飾品をはずした。アロンはそれを用いて、エジプトの神をまねた子牛を鋳造した。（人類のあけぼの上巻 370, 371）

わたしたちの動機が誤解されて好ましくない立場に置かれるからという理由で、はっきりと悪を識別し、悪を明瞭に述べるべきである時に、わたしたちは人の意見に左右されたアロンの罪を繰り返す。わたしたちが接する兄弟やどの魂の罪も黙認してはならない。真理のために堅く立つことに対する怠慢がアロンの罪であった。彼がはっきりと真理を語っていたなら、金の子牛が作られることは決してなかったのである。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]1 巻 1109）

清められていない人々の欲するところを受け入れて、彼らが罪を犯すのを助長する柔弱なアロンのような人々がまだいるのである。（人類のあけぼの上巻 372）

神からの任命を受ける栄誉に浴したものは、弱い……好ましくない義務を避けたりすることなく、ゆるぐことのない忠誠心をもって、神の働きをしなければならない。（人類のあけぼの上巻 379）

今ためらうという危険があまりに多い

「信仰をもって願い求めなさい。疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている。」（ヤコブ 1:6）

ある人々は品性に堅固さがない。彼らはパテで作ったボールのようであり、ありとあらゆる形に押しつけることができる。……この弱さ、優柔不断、無能力は克服しなければならない。情況が変わっても、形造られたり、征服されることのない真のクリスチャン品性の強さがある。人は道徳上の勇気、へつらいやわいろ、あるいはおびえさせられることのない高潔さを持つ必要がある。（教会への証 5 巻 297）

わたしたちには強力な敵がいる。……人がサタンの奴隷になるよう自分自身を引き渡すなら、サタンはキリストのみ名を負い、神に仕える人々に対してあらわす敵意をあらわさない。サタンは神に仕える人々を命を奪うほどの憎しみで憎む。彼はこの人々を自分の欺く力のもとに連れ込むことにより、また彼らを傷つけ、その信仰を弱めることによりイエスを悲しませることができることを知っている。……サタンは自分の戦車に奴隷としてしばりつけられている人々にある一定の自由を許す。彼らは自発的な捕虜だからである。しかし恵みのメッセージがサタンの奴隷に届き、彼らが自分の権力から身を振り離そうとする時彼の憎しみが起こる。それによって彼らが真の羊飼いにつき従うことができるからである。……魂とサタンとの闘争は捕虜がくさりを引っ張り始め、自由になることを切望する時に始まる。……

神について教えを受け、神の道を歩むことを本当に願う者には、自分が知恵に欠けていると感じるなら、神に願い求めるがよい。このお方はとがめもせずに惜しみなく与えて下さるであろうという確かな約束がある。使徒は「疑わないで信仰をもって願い求めなさい」と言っている。……信じなさい。神は約束されたそのことを、して下さることを信じなさい。祈りを捧げ続け、見張り、働き、待ちなさい。信仰の良い戦いを戦いなさい。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1894 年 5 月 10 日）

わたしたちが世の流れにのって渡るかぎり、帆もオールも必要ない。わたしたちの骨折りが始まるのは、流れに逆らって進むために、向きをかえる時である。（教会への証 6 巻 129）

嘲笑とあざけりにもかかわらず堅く立つ

「悪しき者のはかりごとに歩まず、罪びとの道に立たず、あざける者の座にすわらぬ人はさいわいである。」（詩篇 1:1）

悪しき者は神の戒めを愛さず従わないで、それに逆らう者である。これはあなたが避けるようにと警告されているはかりごとをする者、すなわちサタンが青年を迷わせるために用いる部類の人々である。彼らのはかりごと、暗示は罪を軽いものとし、正義をあざける性質のものである。……彼らは罪人の道に立っている者、神の戒めに対する従順と義務の真直ぐな道をそれて、不従順の道へと常に導く者としてあらわされている。悪を行い、他の人々に悪を行うよう誘惑する者たちがそうしなかったなら、多くの罪人が義務の道、純潔で信心深い人生を選んでいたであろうに。ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1886 年 10 月 20 日

人から嘲笑されることを恐れることが、多くの青年を誘惑にひきこみ、不信心の道に歩ませるのである。（ｱﾄﾞﾍﾞﾝﾁｽﾄ・ﾎｰﾑ 530）

イエスは悪魔を喜ばせるために、危険の中にご自分を置こうとはされなかった。それなのにどれほど多くの者が今日あえて立つことができるだろうか。MS17,1893 年

あなたはささいなことで自分の良心にそむくようにさせるために責めたりおどしたり、あざ笑いながら物を言うがままにしてはならない。このように扉を開けることによってサタンが入りこみ、思いを支配するのである。……

あなたは聖書に関心を持つ聖徒でなければならない。……神のみ言葉は確かな導き手である。もし注意深く研究するなら、若者を取り囲み、殺到する誘惑の力のもとに負ける危険はない。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1884 年 9 月 10 日）

ある人々はあなたがあまりに厳格だとあざけり、ひとりよがりだと言うかもしれないが、注意して正しく始め、静かにそれを守り続けなさい。ダニエルの経歴は、もし全部書かれていたなら、彼が直面しなければならなかった誘惑やあざけり、また妬みや憎しみがあなたの前に開かれていたであろう。しかし……彼はあざけりに超越していた。だから勝利者も皆そうなる。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1886 年 8 月 25 日）

節制のために決心して立つ

「しかし、すべて競技をする者は、何ごとにも節制をする。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするが、わたしたちは朽ちない冠を得るためにそうするのである。」（コリント第一 9:25）

家庭でまた教会で、わたしたちはクリスチャンの節制を高い標準にするべきである。これが生きた働いている要素、改革している習慣、気質、品性でなければならない。不節制がわたしたちの世界におけるすべての悪の根源である。（節制 165）

子供たちは悪に抵抗する勇気を育てる教訓を受ける必要がある。……両親は子供たちの前に置く食物に関して充分注意を払わなければならない。大酒飲みは大抵家庭で学んだ不節制という教訓によって作られる。子供たちには精神と体を築く食物を与え、より強い刺激に対する欲望をおこす味付けの濃い食事を遠ざけなさい。

タバコや強いアルコール性の飲物の使用は病気や犯罪の増加に多大の働きをする。タバコはゆっくりと知らない間に進むものであるが、最も悪影響のある毒で、口では言い表せない害を及ぼしている。……

人を酔わせる飲物の使用についての害悪を示すのに議論はいらない。人間のぼんやりした酔った破船すなわちキリストがそのために死なれ、天使が涙を流している魂が至る所にいる。彼らはわたしたちの誇る文明の汚点である。……

古代に、賞を得るために走った人々は、節制の習慣が大切であることを知っていた。だから天の冠を求めて競技するわたしたちはもっと、どれほど気づくべきであろうか。わたしたちは悪に勝利するために全力を尽くさなければならない。（原稿 29,1886 年）

いついかなる時と場合にも厳格な節制の原則を固守する道徳上の勇気が要求される。（ユース・インストラクター 1907 年 9 月 24 日）

あなたは日毎に習慣という織物を自分のために織っているのだということを覚えていなさい。……あなたが健康の法則によく従えば従うほど、永遠の事柄の価値をますますはっきりと認識できるようになる。（ユース・インストラクター 1886 年 8 月 25 日）

反対にもかかわらず原則のために立つ

「それでわたしは彼らに使者をつかわして言わせた、「わたしは大いなる工事をしているから下って行くことはできない。どうしてこの工事をさしおいて、あなたがたの所へ下って行き、その間、工事をやめることができようか。」（ネヘミヤ 6:3）

神はご自分の働きが、あらゆる汚れた影響から守られるようにと、ご自分の要求に応える用意のできた人を用意しておられる。神はあがめられ栄光を受けられる。神がその働きにふさわしい者として任命された人の思いに、神のみ霊が感動を与える時、その人は応えて「ここにわたしがおります。わたしをおつかわしください」と言う。……ネヘミヤは、偽りの原則を降ろし、天に起源を持つ原則を復活させるために、神がお用いになることのできる者であることを自ら示し、神は彼に栄誉を授けられた。主はご自分の働きに、原則に対して剛鉄のように真実な人、霊的視力を失っている人々の詭弁によって揺れ動かない人を用いられる。

ネヘミヤは回復者として主と共に協力する意志があったので神に選ばれた。欺瞞と策略が彼の高潔さを誤解させるために用いられたが、彼は買収されなかった。彼は、邪悪な働きをするために雇われていた無節操な人々の策略によって堕落させられることを拒んだ。臆病な行動を取るようにと、自分を脅迫することを彼らに許さなかった。悪い原則が行われているのを見た時、彼は傍観者として立ち、黙っていることによって同意することをしなかった。自分が悪い側に立っていると人々が結論づけるままに放っておかなかった。彼は正義のために堅く断固として立った。神が設立された原則の曲解に対する影響を一点一画といえども加えようとしなかった。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1899 年 5 月 2 日）

わたしたちは、エルサレムの城壁を築いた人々と同じように、あらゆる種類の反対に会うであろう。しかし彼らがしたように、見張り、祈り、働くなら、神はわたしたちのためにわたしたちの戦いを戦われ、尊い勝利を与えて下さる。……わたしたちは、ゆるがない確信をもって、神がご自分の真理に対して、大いなる尊い勝利をお与えになることを信じつつ、前進しなければならない。……イエスにすがることによって、わたしたちは自分が真理を持っているというはっきりとした力を持つようになる。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1886 年 7 月 6 日）

罪をその正しい名で呼ぶ

「その時ヨシュアはアカンに言った、「わが子よ、イスラエルの神、主に栄光を帰し、また主をさんびし、あなたのしたことを今わたしに告げなさい。わたしに隠してはならない。」（ヨシュア 7:19）

アカンの物語は、一人の罪のために、神の不快は、その違反を探り、罰せられるまで、民や国民の上に置かれるという厳粛な教訓を教えている。罪そのものは堕落させる力を持っている。命取りになるらい病にかかった一人の人は、何千人もの人にその害毒をうつすことができる。……多くの者は、自分の立場や評判を犠牲にするといけないので、あえて不法を責めない。そしてある者は、罪を譴責するのは無慈悲なことだと考える。神の僕は……恐れたり、支持を求めることなく、神のみ言葉を提供するという最も厳粛な義務のもとにある。彼は罪をその正しい名で呼ばなければならない。……

神の愛は決して罪を軽視するように導くことはない。告白していない不正をおおったり、許したりすることは決してない。アカンは神の律法がその著者のごとく、不変のものであることを学ぶのが遅すぎた。それはわたしたちのすべての行動、思い、また感情にあてはまる。これはわたしたちの行動のすべての隠れた動機にまで及ぶのである。罪にふけることによって、人は神の律法を軽くみなすよう導かれる。多くの者は自分の違反を周りの人々から隠し、神は不正に印をつけるほど厳しい方ではないと、都合よく思いこむ。しかしこのお方の律法は正義の大いなる基準であって、神が審判をされる日に、良くても悪くても、人生のすべてのわざと隠れた動機が、この律法と比較検討される。心の純潔は生涯の純潔へと導く。罪に対するすべての言い訳はむなしい。神が罪人に対して証言される時、誰がこの罪人のために嘆願できるだろうか。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]2 巻 996, 997）

世界で最も欠乏しているものは人物である。それは、売買されない人、魂の奥底から真実で、正直な人、罪を罪とよぶのに恐れない人、磁石の針が南北を指示して変わらないように、良心が義務に忠実な人、天が落ちかかろうとも正しいことのために立つ人―そういう人である。（教育 54）

旗を高く掲げる

「門を通って行け、通って行け。民の道を備えよ。土を盛り、土を盛って大路を設けよ。石を取りのけ。もろもろの民の上に旗をあげよ。」（イザヤ 62:10）

試練は増すが、神を信じる者として、互いに励まそう。旗をおろさないで、わたしたちの信仰のはじめであり終わりである方を見つめつつ、旗を高く掲げ続けよう。（手紙 2,1912 年）

わたしたちは神の戒めとイエスの信仰を銘記した旗を掲げることができるように、もっと大いなるクリスチャンの勇気が必要である。反乱の首謀者と妥協をしてはならない。……わたしたちは何時もどこでも主のみ旨を行うようにと、堅い決心をしなければならない。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1899 年 5 月 9 日）

現代の真理を心から受け入れ、これが品性の基礎となるようにしなさい。そうすればこれは目的を不動のものとし、快楽への誘惑、一定しない習慣、世を愛する者のさげすみ、また自己放縦を求める心のやかましい叫び声は影響力を失う。……わたしたちは堅固な宗教上の原則がささえる力についての実例をしるしてきた。死に対する恐れさえも、気の遠くなっていくダビデに、勇敢な従者が生命をかけて汲んできたベツレヘムの水を飲ませることはできなかった。大きな口を開けているししのいる穴も、ダニエルに日毎の祈りを止めさせることはできず、燃えたつ炉も、シャデラクとその仲間に、ネブカデネザルのたてた偶像の前にひれ伏す気持にさせることはできなかった。しっかりとした原則を持っている若者は、快楽を避け、苦しみをものともしないで、神に対して不忠実なことを見られるよりは、ししの穴や熱く燃えたつ炉にさえも向かうのである。（教会への証 5 巻 43）

この世のためであろうと来世のためであろうと、真の成功は正義についての変わらない原則を、忠実に堅く守ることによってのみ、確実になる。岩の上に鉄のペンで書くように、これを良心に書き記しなさい。（教会への証 7 巻 164）

ダニエルの勇気をもって死に直面する

「わが先祖たちの神よ、あなたはわたしに知恵と力とを賜い、今われわれがあなたに請い求めたところのものをわたしに示し、王の求めたことをわれわれに示されたので、わたしはあなたに感謝し、あなたをさんびします。」（ダニエル 2:23）

わたしたちの神はいまし、ご自身を求める者に報いて下さる。バビロン王国の賢者たちが王の思いから消え去った夢を述べて解き明かすことができなかったので、賢者全員を殺すとの布告が出た時、ダニエルは主を求めた。ネブカデネザルは単に夢の解き明かしを要求しただけではなく、夢そのものも語るようにと要求した。……賢者たちは王の要望は理不尽なことであり、人間に要求することを越えたテストであると宣言した。王は怒って、大いなる権力を持ち、激情を抑えきれないすべての人のようにふるまった。王は彼らを一人残らず死刑にしようと決心し、ダニエルとその仲間も賢者として数えられていたので、彼らもこの運命を共にしなければならなかったのである。……

ダニエルは王の前にきて、その決定があれば上訴のできない宇宙の最高裁判所の前に、この事柄を持ち出す時間がほしいと嘆願した。この願いがかなえられた時、ダニエルは、真の神を礼拝するについて自分と一つである同僚にすべてを告げ知らせた。このことについて十分に熟慮してから、彼らはひざまずいて、自分たちの大いなる必要に唯一役立つ知恵と力を神が与えて下さるようにと嘆願した。……

「ついに夜の幻のうちにこの秘密がダニエルに示されたので、ダニエルは天の神をほめたたえた。」……ダニエルの神が彼らの神であることを、私は青年たちに強く印象づけたい。そしてどのような困難が生じても、ダニエルが「天の神のあわれみを請い求め」たように彼らにもさせたい。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1894 年 11 月 22 日）

神はご自分の教会を、その最大の危機の時にお捨てになることはない。神は救いを約束された。（国と指導者下巻 147）

神の宝のうちにある勇気ある者

「万軍の主は言われる、彼らはわたしが手を下して事を行う日に、わたしの者となり、わたしの宝となる。また人が自分に仕える子をあわれむように、わたしは彼らをあわれむ。」（マラキ 3:17）

偉大なのは主のみ業である。人々は自分のつく側を選んでいる。弟子たちがそうであったように、感情を害した人々が去っていって、もはやキリストと行動を共にしない間、異教徒と思われている人々ですらキリストの側を選ぶ。……

神の律法を無効にしようとする人間の企ては、義人にどのような結果をもたらすのだろうか。彼らは、神の聖なる律法の上に置かれている全世界のあざけりのゆえにおびやかされるのだろうか。「主はこのように言われる」というみ言葉のうちに、真の信者は、全世界が神の正しい律法を軽蔑するように思えるので、心が揺れ動き恥じるのだろうか。彼らは悪がはびこるので押し流されるのだろうか。いいえ、神に仕えるために自分自身を捧げた者に対して、従順な者と違反者との間に対照が示される時、神の律法はますます尊くなる。サタンの属性が、神の律法を軽蔑する者、また違反者のうちに発達するのに比例して、忠実な信者にとって聖なる規範はますます大事なまた価値あるものとなる。彼は「彼らはあなたのおきてを破りました。それゆえ、わたしは金よりも、純金よりもまさってあなたの戒めを愛します」と宣言する。周囲のすべての者が自分に与えるさげすみによって、神の戒めに対する愛がつのる人は、神の恵みについての忠実な家令であった人である。

よこしまな人々や教会は神の律法に対するこの憎しみで一致し、それから重大な試練がくる。……しかし彼らがつぶやき、不平を言い、偽りの告発をしてサタンの働きをしている間、最も熱心な別のグループは次のようにわたしたちの注意を引く。「そのとき、主を恐れる者は互いに語った。主は耳を傾けてこれを聞かれた。そして主を恐れる者、およびその名を心に留めている者のために、主の前に一つの覚え書きがしるされた。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1897 年 6 月 15 日）

神はその子らと共におられる

「恐れるな、わたしはあなたと共におる。わたしは、あなたの子孫を東からこさせ、西からあなたを集める。わたしは北にむかって『ゆるせ』と言い、南にむかって『留めるな』と言う。わが子らを遠くからこさせ、わが娘らを地の果からこさせよ。」（イザヤ 43:5, 6）

わたしたちは自分の働きを気持ちよく希望にみちて行わなければならない。どんな場合も失望すべきではない。経験している不愉快な部分から目をそらして、言葉を希望にみちあふれたものとしなさい。わたしたちは自分の周囲を快活な雰囲気で包むこともできるし、憂うつな気分でみたすこともできる。勇気を語るように自分自身を教育しよう。キリストの模範から教訓を学ぼう。ユダヤ人とローマ兵の手のうちにあった時のこの上ないへりくだり、すなわちこのお方に対する偽りの裁判と受けられた残酷な仕打ちですら、キリストを失望させることにはならなかった。（手紙 115，1904 年）

あなたの初めの確信を最後まで堅く保ちなさい。神の真理の光が薄暗くなってはならない。この光は、わたしたちの世界を包み隠す誤謬という暗闇のただ中で、輝かなければならない。神のみ言葉が地の一般の人々に開かれるように、高い地位の人々にも開かれるべきである。キリストの教会は真理を宣言する神の代理人である。教会は特別な働きをするために、神に権限を与えられているので、神に忠実であり、その戒めに従順であるなら、教会内に卓越した神の力が内住する。イスラエルの主なる神にほまれを帰すならば、教会に敵して立つことのできる権力はない。教会が自分の義務に忠実であれば、敵の勢力は、つむじ風に逆らうもみがらほどにも教会に圧力を加えることはできない。

もし教会がキリストの義の衣をまとって、世に対するあらゆる忠誠から身を引くなら、輝く栄光の日の夜明けが教会の前にある。……キリストから救いの生ける水が流れ出ている。……信仰によってわたしたちがキリストの力強さをつかむ時、このお方は最も希望がなく、失望落胆するような見通しを、驚くほどに変えて下さる。このお方はご自分のみ名の栄光のためにこのことをされる。（教会への証 8 巻 11, 12）

力が新たにされる

「主を待ち望む者は新たなる力を得、わしのように翼をはって、のぼることができる。走っても疲れることなく、歩いても弱ることはない。」（イザヤ 40:31）

成功する戦いをするために、兵士は勇気と力強さを持たなければならない。自分自身について言えば、わたしたちは無力で弱々しい。しかしわたしたちには「主を待ち望む者は新しい力を得る」という約束がある。（手紙 156, 1903 年）

神のみ業を前進させるための障害物があらわれる。しかし恐れてはならない。契約を守られる神は、王の王としての全能に、優しい羊飼いの親切と心配りを結びつけられる。このお方の道に何者も立ちはだかることはできない。その力は絶対的であり、ご自分の民に対するそのみ約束が確かに成就するという堅い約束である。神はご自分のみ業の前進を妨げる障害物をすべて取り除くことがおできになる。ご自分に仕え、神が用いられる方法を尊重する者たちを救い出すために、あらゆる困難を取り除く手段を持っておられる。このお方の慈しみと愛は無限であり、その契約は変わることがない。

み働きに対する敵の計画はしっかりとして、よく確立しているように思えるかもしれないが、神はこれらの最強の計画をくつがえすことがおできになり、ご自身の時と方法によって、わたしたちの信仰が十分に試され、わたしたちがこのお方に近く引きよせられて、この方を自分の相談相手とすることを見られる時、このことをなされる。

最も暗黒の日々に、状況が非常に険悪に思われる時に、恐れてはならない。神のうちに信仰を持ちなさい。神はご自分の民のためにすべてを益として、み旨を果される。神を愛しこの方に仕える者の力強さは、日々新らたにされる。彼らがご自分の目的を遂行するにあたって間違いを犯すことがないように、彼らの奉仕にご自分の悟りを与えて下さる。

神の奉仕に失望落胆があってはならない。わたしたちの信仰は、この奉仕を圧迫するためにふりかかる圧力に耐える必要がある。神はご自分の僕が必要とする力をすべて与えることがおできになり、また与えようとしておられる。このお方はご自分を信頼する者たちの最高の望み以上のことをかなえられる。（教会への証 8 巻 10, 11）

Good Way Series 研究 3-2

キリストが戸をたたいておられる（II）

I-A 転機

大多数による改革のメッセージの拒絶（黙示録 3:17-20）が、教会の歴史において、次の結果を伴う転機となりました。つまり、教理的な基礎をみだりに変更することや、争いと分裂の発展です。ここにいくつかの恐るべき予告があります。

1. 基礎をみだりに変更する

「この時代のための真理は貴重である。しかし、岩なるイエス・キリストの上に落ちることによって心がくだかれていない人々は、何が真理であるかを見ることも理解することもない。彼らは自分たちの考えを喜ばせるものを受け入れるが、敷かれているものとは違う別の基礎を作り始めるであろう。彼らは自分自身の虚栄と評価にうぬぼれ、自分たちがわたしたちの真理の柱を取り除いて、それらを自分たちが考案した柱と取り換えることができると考える」（原稿 28,1890 年）。

「多くの人々は、キリストとこの時代のための貴重な聖化させる真理に栄光を帰すよりもはるかにもっと人間の知恵を信頼し、栄光を帰してきた。彼らは天来の目薬を必要としている。それは何が光であり、闇であるのかを、彼らが理解できるためである。彼らはせまい慣例に閉じ込められていないことを神に感謝するが、真理が及ぶ広さや遠大さを見ておらず、天の大きな寛大さに関して神の御霊によって啓発されていない。彼らは人が作った発明や発見に感嘆するが、自分自身のともした火花の中を歩いており、人間に救いに至る知恵を与えるために定められたクリスチャンの行動の本当の諸原則からますます遠のいていく。…この時代に教会は命にかかわる主要な関心事からそれて、健康や勇気、信仰、力をもたらすことのないものへ向かってはならない。彼らは見て、その行動によって、

福音は積極的であることを証しなければならない。しかし、ますます明るく輝いて真昼に至るために与えられた光は、おぼろげに燃えている。教会は死のとばりのように世界を包む道徳的な闇のただ中で、もはやはっきりとした明るい光線を送ってはいない。…主はわたしの前に敵によっていくぶんか盲目にされてきた人々、サタンのわなから完全には回復してこなかった人々は危険に陥ることを示された。なぜなら、彼らは天からの光を識別することができず、偽りを受け入れる傾向があるからである。これは彼らの思想、彼らの決定、彼らの提案、彼らの勧告の全体的な方向に影響を及ぼす。神が与えてこられた証拠は、彼らにとっては証拠とならない。なぜなら、彼らは光よりも闇を選ぶことによって、自らを盲目にしてきたからである。そのとき、彼らは自分たちが光と呼ぶものを創出するが、主はそれを彼ら自身のともした火花だと呼ばれる。それによって彼らは自分の歩みを導くのである」(牧師と働き人への特別な証 No.1, 12-17 (1892 年)。

「真理だと主張する、狂信と誤った理論の一つ一つの局面が、神の残りの民の間に持ち込まれるであろう。これらはこの時代の真理とは何の関係もない誤った所感で思いを満たすであろう。…

主がわたしに与えて下さった光によると、人々は歪んだことを話しながら台頭するようになる。しかり、すでに彼らは働いてきており、神が決して明らかにしてこられたなかったことを語り、聖なる真理を通俗的な事柄の水準に持ってきている。…

人は自分たちの雑多な異端の塊の中に自らの身を置いてきた。彼らはそれを民のための託宣として提示する。民は、変わった新しいものに魅了され、人が何ものかであるようにでっちあげた考えの性質を見極めるほど経験において賢くない。…ああ、どのようにこれは教会における敬神の低い標準を譴責するであろうか」(手紙 136a, 1898 年)。

「無意味な偽りの問題を、試金石となる真理として提示する牧師や働き人がいる。それはちょうどユダヤ人のラビたちが人間の格言を、天のパンとして提示したのと同様である。これらは神の群れに、時宜にかなった食事として与えられるが、一方では哀れな羊たちが命のパンに飢えているのである。今でさえ、驚くような何かを立ち上げ、それを新しい光として伝えることを熱烈に願っているかのように見える。こうして人は重要な真理としての織物の中に偽りの繊維を織り込んでいるのである。」(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1901 年 1 月 22 日)「神の群れのために用意

されてきた食物は、霊的な消費、衰え、そして死を生じさせるであろう」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1901 年 6 月 18 日）

「救い主はユダヤ人のうちに、神から離婚した国家をご覧になったとき、自称クリスチャン教会が世と法王権に結合するのをご覧になった。そしてこのお方がオリブ山に立たれて、西の丘の向こうに日が沈むまで、エルサレムのために涙を流されたように、このお方はまたこの時の終わりの瞬間にいる罪人のために涙を流し、嘆願しておられる。まもなく、このお方は四方の風を引き留めている御使たちに次のように言われる、『災いをそのままにせよ、闇、破壊、そして死が、わが律法の違反者たちの上に臨むままにせよ』。このお方はちょうどこのお方がユダヤ人に『もしおまえも、この日に、平和をもたらす道を知ってさえいたら……しかし、それは今おまえの目に隠されている』と言われたように、大いなる光と知識を持ってきた人々に対して言わざるを得ないのであろうか」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1901 年 10 月 8 日）

「偽りの理論が、経験のすべての局面で混ぜ合わされるであろう。そしてみ言葉の聖なる諸原則の完全な知識に根差し、基礎をおいていないすべての魂の思いをとりこにするために、それらが悪魔的な熱心さをもって採用されるであろう。わたしたちの真っただ中で偽りの教師が起こり、悪魔的な起源を持つ教理の誘惑する霊に注意を払うであろう。これらの教師たちは、弟子たちを引き離して自分自身の後へ従わせるであろう。気づかれないように忍び込み彼らはへつらいの言葉を用いて、また誘惑的に機転をもって巧みに虚偽の陳述をなすであろう。…もし、神からの警告によってまがきを設けられ、彼らが成功しないならば、彼らは自分たちの働きの特徴や自分たちがなしてきた表現をいくぶんか変え、また自分たちの計画をもう一度、偽りのできばえの下に実行するであろう。彼らは告白し、悔い改め、信じることを拒む。告白はなされるかもしれないが、本物の改革は行われず、誤った理論は、危険に気づかない魂に破滅をもたらす。なぜなら、これらの魂はこれらの理論を採用する人々を信じ、頼るからである」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1904 年 1 月 7 日）

「今、魂に有罪宣告を下すことにおいて、大きな働きがなされなければならない。教会のただ中に誘惑する霊、悪魔の教理があるであろう。そしてこれらの邪悪な感化力は増していくであろう。…神の真理を偽りに変えようとする人々を説得しようとして、貴重な時間を費やしてはならない。…信仰から離れようと決意した

人はだれであっても、あなたは助けることができない。あなたが論じることはすべてむだ話のようになる。真理の旗印をとり、それを高く掲げ、ますますより高く掲げなさい。…邪悪のパン種に気をつけなさい。…神は今、ご自分に仕えようと、そして永遠の真理という土台の上に固く立とうと選ぶすべての人を召しておられる」(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1906 年 8 月 9 日)

「わたしたちは今、聖霊の教えの下にいない人々が偽りの理論を持ち込む時代に生存している。これらの人々は高い所に立っていた。そして実行するための野心的な事業があった。彼らは自らを高めようと、また物事の現れ全体を大変革しようとしている」(SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]7 巻 954 (1905 年)。

「神がわたしに与えて下さった光により、わたしはキリストの従者だと主張する人々の大きな一つの危険は、自己欺瞞のうちにあることを知っている。サタンは自分の機会を見張っている。彼は人間の姿をして人々のところへやってきて、彼らに最も魅惑的な言葉を語るであろう。彼らの思いと心が、キリストの表された純粋で無我の聖化された愛で満たされていないかぎり、彼らはサタンの力の下に倒れ、またできれば選民をも欺こうと、未知のことを行なったり、語ったり、記したりするであろう」(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1910 年 6 月 30 日)

「指示は与えられてきた。わたしたちの民は偽りの教理を採用する人々とわずかでも結合することに対して警告を受けてきた。自分の同情と関心が、神のみ言葉の教えに反対する働きに参加することを許す人は、危険な戦場、すなわち、悪の代理人たちに囲まれている場所にいる。サタンは神の特別な民の間に、未知の禁じられた事柄を持ち込もうと大いに決意して働いている。…

畑は非常に広く、魂の敵の努力は非常に巧妙で倦むことを知らないため、神の民は大いに見張り、教会や世において悪に対抗するために熱心に止むことなく働く必要がある。サタンとその使たちは、サタンの力によって支配することのできる人々のために特別な分野の働きを計画している。

あらゆる程度や種類の欺瞞が持ち上がりつつあり、サタンはできることなら選民をも惑わそうとしている。数多くの主があり、数多くの神があるであろう。見よ、ここにキリストがいる、あそこにいる！というメッセージが聞かれるであろう。堕落する前に天の聖なる存在の反逆のために彼がひそかにたくらんだ同じ巧妙な力をもって、サタンは今日人類の間で、自分の邪悪な目的を成就しようと働いている。

わたしはわが民にエゼキエル 28 章を研究するようにとお願いする。ここに表

されていることは、ルシファー、すなわち堕落した天使のことを言及している一方、さらに広い意味を持っている。一人の存在だけでなく、全体的な運動、かつわたしたちが目撃することになる運動が述べられているのである。この章を忠実に研究するとき、真理を求めている人々がこの終わりの時代の欺瞞によって欺かれないように、神がご自分のために与えてこられたすべての光のうちを歩くように彼らを導く」(特別な証シリーズ B, No.17 29, 30 (1911 年)。

(46 ページの続き)

死ぬ？彼らはふしぎに思いました。神さまがおっしゃったのはどういう意味だろう？そしてなぜこのお方は彼らが食べてはならない木を園の中に植えられたのだろう？

なおも不思議に思いながら、日が水平線に向かってますます低く沈んでいくときに、彼らは共に自分たちの幸せな道を進んでいきました。

なんという日だったことでしょう！たそがれになり、動物たちは自分の創造主の召しに応えて地からとび出してきました。それから、このお方はご自分のかたちに、ご自分のすがたにしたがって、人を造られました。最後に、すべての最高傑作として、無限の知恵と愛と理解とをもって、このお方はご自分の最も美しく完全な作品、すなわち女を造られました。

そして今、このすばらしい一日は閉じようとしていました。影が長くのび、鳥は木々の間でさえずり、森からの変わった声がひびくのは、動物たちが本能で夜が近づいたことを知っていることを告げています。

西の方にむかって、燃えるような日没の栄光をじっとながめながら、アダムとエバは空がおどろくような色で満たされ、新しい美しさがすべての木や花から燃えるようにかがやくときに、おそれかしこんで立ち尽くしていました。

何が起こるのでしょうか？彼らは思いめぐらしました。彼らの美しい世界はこんなにも早く終わりに向かうのでしょうか。しかし、神さまは彼らにささやかれました。「これは日没にすぎない。たそがれの栄光をごらんなさい」。

「神が造ったすべての物を見られたところ、それは、はなはだ良かった。夕となり、また朝となった。」それはその通りでした。とてもとても良かったのです。地、海、木々、花々、動物たち―すべては神さまがお造りになることのできる完全なものでした。そしてこの幸せな人間夫婦はとてもゆったりと、とても美しく、とても愛らしくむじゃきに、自分の造り主をうやうやしく礼拝して頭をたれました。このお方は他に何を望むことができたでしょうか？

創造は完成しました。神さまのみ働きはなしとげられました。このお方の愛のご目的ははたされました。ふたたび明けの星が相共に歌い、神の子らが喜びよばわったときに、天がこのお方の賛美で満たされたのも不思議はありません。

タイ風春雨サラダ　（ヤム・ウンセン・ジェー）

<材料>（2 人分）

春雨（乾燥）	40g
万能ねぎ	3 本
にんじん	25g
レモングラス	1 本
生きくらげ	20g（なければ乾燥きくらげを戻して）
小玉ねぎ（ホムデーンの代用）	3 個
カシューナッツ	大さじ 2
パクチーの根	1 本

●調味料

砂糖	大さじ 1
レモンの絞り汁	大さじ 1 & 1/2
塩	小さじ 1
昆布顆粒だし	小さじ 1/2
パクチーの葉（刻む）	適量

<作り方>

1. 春雨は水で戻し、食べやすい長さにはさみで切って、沸騰した湯でゆでます。水をよく切って下さい。
2. 万能ねぎは長さ 2㎝に、にんじんはせん切り、レモングラスは薄切りにします。きくらげは、茹でて細切りにします。
3. 小玉ねぎを薄切りにして高温でさっと揚げます。カシューナッツを低い温度の油でじっくりと揚げます。
4. パクチーの根を、すり鉢とすりこぎでつぶし、調味料を加えてよく混ぜます。
5. 春雨、万能ねぎ、にんじん、レモングラス、きくらげと一緒にボウルに入れて調味料を加えてよく和えます。
6. 器に盛り、揚げた小玉ねぎやカシューナッツとパクチーの葉を飾ったら完成です。

刺激の強いトウガラシやチリソースをのぞいたエスニックレシピです。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校：9:30-10:45（公開放送）

礼拝説教：11:00-12:00（公開放送）

午後の聖書研究：14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp

聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先：〒 350-1391　埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係

是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。

【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。

聖書物語

パート2　第2話

人がもった園の家庭（II）

たしかに、人が今まで建てた家で、これほど美しく、これほど平和で、これほどすべてが完全な、この主なる神がずっと昔にエデンに設けられた栄光の園の家庭のような家はありませんでした。

アダムとエバは、手に手をとって、うるわしい光景をここかしこに急ぎながら、どれほどうれしかったことでしょう！わたしは、エバが「ああ、アダム、この可愛い花を見て。そして、これも、これも！そしてこれを香ってみて！ここで暮らすのはなんとすばらしいことでしょう！」というのが聞こえるようです。

熱心に歩きながら、彼らはとつぜんに二本の目立つ木のところへ来ました。彼らがこれまで見てきたどの木とも違って、両方ともかがやく色をした実がたわわになっていました。彼らがこの新しいおどろくべき光景に感嘆してたちどまると、神さまは彼らに近づいて、今はこの園の家庭の真ん中にいるのだということをお告げになりました。これらの木のうち一つは「命の木」であり、もう一つは「善悪を知る木」でした。

「主なる神はその人に命じて言われた、『あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きっと死ぬであろう』」。

（43 ページに続く）